

## 平成 28 年度高大連携・学問探検ゼミの成果発表会を開催しました

本学経済学部2年生は、後期に開講される22のいずれかの中級演習(ゼミ)Ⅱに所属します。今年度の「教育GP」の高大接続事業の中核事業である「学問探検ゼミ(本学2年生の中級演習Ⅱ)」は、5ゼミ(宇野、城戸、仲本、佐藤隆、宮町・佐藤)に大分南・大分雄城台・大分の各高校から14名の2年生を迎え開講しました。



平成29年2月3日(金)、宮町・佐藤ゼミの成果発表会が行われました。当日はゼミ所属の高校生4名、大学2年生14名、その他3高校から2年生30名、高大の教員15名、合計63名が参加者しました。



この事業は「学びは高きに流れる」ことを基本理念に、高大それぞれの立場から連携教育を推進しようとする取り組みです。大分県教育委員会と本学は、平成19年7月に高大連携協力協定を結び、平成20年度から高校生を迎え「学問探検ゼミ」を実施してきました。これは、高校生が“学問の入口”を大学生と一緒に学ぶことで進学意識の向上やキャリア形成に役立てようと、高校と本学経済学部の高大連携事業として位置づけられています。高校生にとっては、大学の実際の授業

に参加することで、大学の日頃の授業のようすなどを直に肌で感じることができる貴重な機会となっています。また、大学生は高校生に調査の手ほどきを行い、「ナナメの関係」で切磋琢磨する状況が生まれ適度な緊張感のあるゼミができます。

ゼミでは、関心のある社会科学分野を各班で設定し具体的な事例を調査研究しました。テーマや学問分野の選定、文献調査の仕方、問題意識、調査・分析、論文作成、高校生への指導、発表資料の作成など、高校生と一緒に毎時間盛りだくさんの課題に挑戦し悪戦苦闘の連続でした。当日の4グループの発表テーマは「エコツーリズムの可能性～観光学からのアプローチ～」、「需要と供給から考える待機児童問題」、「EUの成り立ちとイギリス離脱～社会学・地域学から考える～」、「東九州自動車道のメリットとデメリット～地域学から見た大分県と宮崎県～」で、いずれも私たちを取り巻く事象を直視し興味・関心や疑問点を学問領域から分析した内容になっていました。班ごとに、前半は資料収集と分析、後半はレポート作成、発表準備を行いました。各班とも論理的展開、図表の作成や図表から何を伝えるかなど、調査研究の難しさに直面し、協力して乗り越えることを学びました。



発表後の質疑応答では、来場した高校生から「待機児童解消の方策」や「東九州自動車道開通によるモノの移動の変化」などの質問が出され、回答の難しさも体験しました。最後に宮町良広教授から受講高校生に修了証書が授与され、佐藤裕哲特任教授がゼミの意義や発表会の講評を行いました。受講高校生から「高校と大学の課題の取り組み方の違いがわかった」などの感想が届きました。進行は、経済学部3年の宮崎由衣さんが務めました。